



学校教育目標「自立・協働・創造」～ ジョン万スピリットで未来を切り拓く！～

◎「命」について考える

～ 道徳の研究授業を行いました。～

2月25日(水)、3年1組で実施した道徳の授業を全教員で見せてもらいました。「ドナー」という臓器移植をテーマとした教材を通して、「命」について考える授業でした。

授業のはじめに「臓器移植」について学ぶ動画を視聴し、授業者の武田先生が、クラスみんなに、「もし、自分が脳死状態になったら、みんなは臓器提供をしますか？」

と問いかけ、意思表示をしてもらいました。結果、「提供しない」と回答した人は2人だけ。他の人は「提供する」と回答しました。

次に、武田先生が、

「もし、家族が脳死と診断されたら、家族の臓器を提供しますか？」

と聞きました。その問いかけに対して、3年1組の生徒たちは、自分事として、真剣に考えていました。意思表示をしてもらおうと、「提供しない」と回答した人が増えました。

「自分の命だったら、誰かのためになるなら臓器を差し出そうと思うけど、大切な家族の心臓がまだ動いているのに、臓器を誰か知らない人にあげるのは、いやだと思う。」「大切な家族だから、亡くなってお別れするまで、家族の体はきれいなままで残してあげたい。」「家族の臓器はあげたくないと思うけど、前に家族と臓器移植のことを話した時、家族が“提供したい”と言っていたから、提供した方がいいのかな、とも思う。」など、葛藤する気持ちを伝え合ってくれました。

この問いには、答えはありません。真剣に向き合い、導き出したそれぞれの考えが尊重されるべき、「命」についての「問い」だからです。でも、臓器移植にかかわらず、いつか「命」に向き合わなければならない時がやってきます。

ぜひ一度、この道徳の学びをきっかけにして、ご家庭で話題にさせていただけると嬉しいです。



◎ 令和7年度「学校評価アンケート」結果より

～ ご協力ありがとうございました。～

裏面に生徒と保護者の回答を比較できるグラフを掲載しています。特に大きな差が見られたのは「学力」と「家庭学習」についての項目でした。

生徒は前向きな姿勢で授業に取り組んでいるので、得意・不得意はあっても、自分なりに学力は向上していると感じています。また、定期テストに向けて計画表を作成して勉強していることもあり、「計画的に家庭学習に取り組んでいる」と肯定的にとらえているようです。

一方、保護者は、家庭の中で学習している場面を見ることが少なく、もっとがんばってほしいと感じていることがわかります。

家庭学習については、高知県としても課題としてとらえており、本校も例外ではありません。どの教科においても毎日、取り組むべき課題(宿題)を出しており、教員は日々そのチェックを行っています。しかし、どの教科でも、未提出として名前があがる生徒が多数いますし、「解答を写して、理解しないまま提出しているのではないか」、「自分の考えではなく、生成AIの出した解答ではないか」と心配される取り組み方も見られています。

本当に力がつく学習になっているのか。

今一度、生徒とともに考えたいと思います。「当たり前前のことが、当たり前前にできる学校」を目指している清水中学校の全生徒、全教員で「学ぶことの意味」を追求していきます。

今回いただいたご意見を、全教職員で共有しました。評価していただいたことを真摯に受け止め、教育活動の充実に努めて参ります。また、学校での学びや家庭で取り組んでいただきたいことなどが確実にご家庭に届くよう、これからも情報発信にも力を注ぎたいと考えております。今後とも、ご支援いただきますようお願いいたします。

【別添の「生徒及び保護者の経年比較」もご覧ください。】

★アルミ缶を回収しています★

学校プール西側(道路端フェンスの内側)に「アルミ缶回収場所」を設置しています。収益は、生徒たちの活動支援のために活用させていただいています。ご協力、よろしくお願いいたします。